

概要版

令和2年度  
京都市上下水道事業

# 経営評価

[令和元年度事業]



京都市上下水道局  
マスコットキャラクター  
ホタルの澄都(すみと)くん



京都市上下水道局  
マスコットキャラクター  
ホタルのひかりちゃん

# 2019

## 視点① 京の水をみらいへつなぐ

- 水安全計画の適正な運用, 老朽化した水道管路や浄水場の基幹施設(配水池等)の改築更新・地震対策 等
- 老朽化した下水道管路や重要な管路(緊急輸送路下の管路, 避難所からの排水を受ける管路)及び水環境保全センター主要施設の改築更新・地震対策 等
- 「南北2箇所の事業・防災拠点」の実現に向けた南部拠点整備事業, 防災・減災のための装備の拡充や他事業体等との合同防災訓練, 「雨に強いまちづくり」に向けた雨水幹線の整備 等



18の取組項目に対する評価は、A評価が14、B評価が4、C評価以下がゼロとなりました。  
また、数値目標は、一部の工事において地下埋設物の影響等により進捗が遅れたため「合流式下水道改善率」は目標に届きませんでした、その他の11項目は目標達成となりました。

## 視点② 京の水でところをはぐくむ

- インターネットを活用したお客さまサービスの利用促進, 琵琶湖疏水記念館開館30周年記念事業や疏水通船事業の運営支援 等
- 大規模太陽光発電設備による再生可能エネルギーの継続的な利用, 省エネ・高効率機器の導入, 固形燃料化施設整備事業(鳥羽水環境保全センター内)の推進 等



6つの取組項目に対する評価は、A評価が4、B評価が2、C評価以下がゼロとなりました。  
また、数値目標は、「窓口、電話対応のお客さま満足度」及び「広報活動の認知度」は目標に届きませんでした、その他の4数値目標は目標達成となりました。

## 視点③ 京の水をささえつづける

- 若手職員の技術力向上を目的とした「専門技術研修」 等
- 組織・業務の見直しや民間活力の導入等の効率的な事業運営, 企業債残高の削減, 保有資産の有効活用 等



6つの取組項目に対する評価は、A評価が5、B評価が1、C評価以下がゼロとなりました。  
また、4つの数値目標はいずれも目標達成となりました。

1年間の進捗に対する取組項目評価については、一部の工事での遅延等があったものの、全体としては概ね順調に進捗したことから、30の取組項目のうちA評価(十分に達成されている)が23項目、B評価(かなり達成されている)が7項目となりました。

なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により事業用の使用水量が大きく減少していることから、水道料金・下水道使用料収入は4~7月の4箇月で前年度比△11.3億円(水道△5.3億円、下水道△6.0億円)と大幅に減収しており、上下水道事業を取り巻く経営環境は一層厳しいものとなっています。

今後、プランに掲げる目標利益が困難となる大変厳しい見通しの中、予算の執行に当たってはより一層の精査を行いながらこれまで以上に経費削減に努め、効率的な事業運営を図るとともに、持続可能な「レジリエント・シティ京都」の実現に向け、長期的な視点での取組について引き続き着実に推進してまいります。

# 令和元（2019）年度の事業推進の状況

令和元年度は経営戦略「京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくるー」及び「中期経営プラン（2018-2022）」の2年目として各取組を概ね順調に推進しました。その一方で、節水型社会の定着等による水需要の減少に加え、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により事業用の使用水量が大きく減少していることから水道料金・下水道使用料が大幅に減収しており、上下水道事業を取り巻く経営環境は一層厳しいものとなっています。

## 方針① つくる **100 パーセント** 異臭（かび臭）のない水達成率

24時間監視やきめ細やかな水質検査を継続実施し、水質管理を徹底しました。

数値目標：異臭（かび臭）のない水達成率

令和元年度実績/目標 **100% / 100%**      令和4年度目標 **100%**



水質検査の様子

### 水源から蛇口までの水質管理を徹底しています

水安全計画に基づき適正な水質管理を実施するとともに、水質自動監視装置の設置や、臭気除去性能に優れる高機能な粉末活性炭注入設備の設置に向けて取り組んでいます。また、一般的にコロナウイルスに対しては、塩素等による消毒の効果が高いとされており、水道水が原因となって新型コロナウイルスに感染することはありませんので、引き続き安心して御利用いただけます。

## 方針② はこぶ **56 キロメートル** 水道配水管の更新・耐震化の年間実施延長



水道配水管の布設替工事

## **33 キロメートル** 下水道管路の調査及び改築・地震対策の年間実施延長

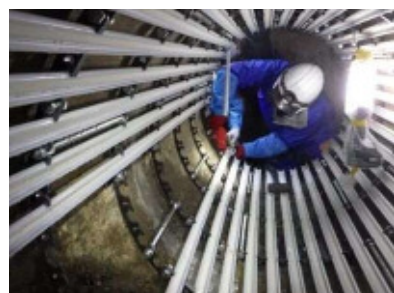
老朽化した水道配水管の更新・耐震化を実施し、年間の更新率を1.4%に引き上げました。また、下水道の管路内調査を行い、計画的に老朽化した下水道管路や重要な管路の改築更新・耐震化を進めました。

数値目標：老朽配水管の解消率

令和元年度実績/目標 **31.9% / 31.9%**      令和4年度目標 **47%**

数値目標：下水道管路改築・地震対策率

令和元年度実績/目標 **18.1% / 18.1%**      令和4年度目標 **28%**



下水道管路の更生工事



### 管路・施設の老朽化対策・地震対策を推進しています

水道・下水道ともに管路・施設の老朽化が進んでいく中、皆さまに安心してご利用いただけるよう、計画的に老朽化対策を進めています。

# HIGHLIGHTS

	数値目標の達成状況		取組項目の達成状況				
	達成	未達成	A (100%以上)	B (99~80%)	C (79~50%)	D (49~20%)	E (20%以下)
プラン全体	1	-					
① 視点①	11	1	14	4	-	-	-
② 視点②	4	2	4	2	-	-	-
③ 視点③	4	-	5	1	-	-	-

プランに記載の数値目標のうち当年度における目標数値が設定されていない項目を除く。

## 方針③ まもる **29.2 パーセント**

### 10年確率降雨に対応した雨水整備率

大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を進め、雨水整備率の目標数値を達成しました。

数値目標：雨水整備率（10年確率降雨（62mm/h）対応）

令和元年度実績/目標 **29.2% / 29.2%**      令和4年度目標 **33%**



完成した雨水幹線内部（山科川13-1号幹線）

### 市民・事業者の皆さまとともに「雨に強いまちづくり」を進めます

**5年確率降雨（52mm/h）対応では全国トップクラスとなる91%!**  
総貯留量 50万7千トン（学校プール1,200個以上）の雨水幹線等を整備しました。今後も雨水貯留施設・雨水浸透ますの普及促進等も図りながら、市内の浸水に対する安全度を更に向上させていきます。

## 方針④ やたかにする **9,650 トン** 1年間に有効利用した下水汚泥の総量

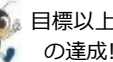
消化ガスの汚泥焼却炉等への利用等により「下水汚泥有効利用率」は目標を上回る32.3%に向上しました。

数値目標：下水汚泥有効利用率

令和元年度実績/目標 **32.3% / 30.0%**      令和4年度目標 **50%**



汚泥消化タンク（鳥羽水環境保全センター）



目標以上の達成!

企業債残高削減額（H30-R元）

区分	H30	R元	削減額
水道	1,663億円	1,618億円	△45億円
下水道	2,893億円	2,787億円	△106億円
計	4,556億円	4,405億円	△151億円



目標以上の達成!



方針⑤ させる

## **151 億円** 企業債残高の削減

組織・業務の見直しや民間活力の導入をはじめ、効率的な事業運営に努めた結果、プランの目標利益を確保し、企業債残高の目標を達成できました。

数値目標：企業債残高

令和元年度実績/目標 **4,405億円 / 4,421億円\***      令和4年度目標 **4,149億円**

\*令和元年度予算における目標値

## 中期経営プランにおける数値目標の達成状況

区分	通番	指標名	H30実績	R元実績(目標)	達成状況	(R4目標)	
プラン全体	1	事業に対する総合満足度	78.5%	79.7% (70%以上)	○	70%以上	
視点① 京の水をみらいへつなぐ	① つくる	2	異臭(かび臭)のない水達成率	100%	100% (100%)	○	100%
		3	浄水施設の耐震化率※1	51.0%	— (—)	—	76%
		4	配水池の耐震化率	28.1%	31.3% (31.3%)	○	54%
		5	有収率	90.7%	90.9% (90.7%)	○	91.0%
	② はこぶ	6	老朽配水管の解消率	27.1%	31.9% (31.9%)	○	47%
		7	主要管路の耐震適合性管の割合	52.8%	54.5% (54.0%)	○	58%
		8	下水道管路改築・地震対策率	14.8%	18.1% (18.1%)	○	28%
		9	高度処理管理目標水質達成率	100%	100% (100%)	○	100%
	③ きれいにする	10	処理施設の改築更新数	累計 13 施設	累計 16 施設 (累計 16 施設)	○	累計 37 施設 (2018-2022年度)
		11	合流式下水道改善率	66.2%	66.2% (67.3%)	×	96%
		12	飲料水の備蓄率	62.0%	62.4% (51.1%)	○	55%
	④ まもる	13	雨水整備率(10年確率降雨対応)	28.6%	29.2% (29.2%)	○	33%
		14	新技術等の調査研究件数	年間 34 件	年間 36 件 (年間 18 件)	○	累計 90 件 (2018-2022年度)
	視点② 京の水でこころをほぐす	① こたえる	15	窓口、電話対応のお客さま満足度	61.8%	60.1% (60.8%)	×
16			インターネットを活用したサービスの利用件数	年間 11,703 件	年間 21,862 件 (年間 8,500 件)	○	累計 45,000 件 (2018-2022年度)
17			広報活動の認知度	37.7%	29.9% (33.5%)	×	35%
② ゆたかにする		18	琵琶湖疏水記念館来館者数	累計 264 万人	累計 276.4 万人 (累計 272.5 万人)	○	累計 310 万人 (2018-2022年度)
	19	事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(H16比)	24.0%	26.9% (20.5%)	○	25%	
	20	汚泥有効利用率	27.3%	32.3% (30.0%)	○	50%	
視点③ 京の水を大切にしている	① になう	21	技術系資格保持者の割合	32.1%	34.5% (34.0%)	○	40%
		22	職員定数	1,218 人	1,191 人 (1,191 人)	○	1,149 人
	② ささえる	23	下水道の大規模更新に備えた積立金	—	26.9 億円 (26.9 億円)	○	50 億円
		24	企業債残高	4,556 億円	4,405 億円 (4,421 億円※2)	○	4,149 億円

※1 「浄水施設の耐震化率」は令和元年度の目標設定がないため評価していません。

※2 令和元年度予算における目標値



令和元年度の取組や経営評価の詳細内容は本冊子をご覧ください。  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000256578.html>

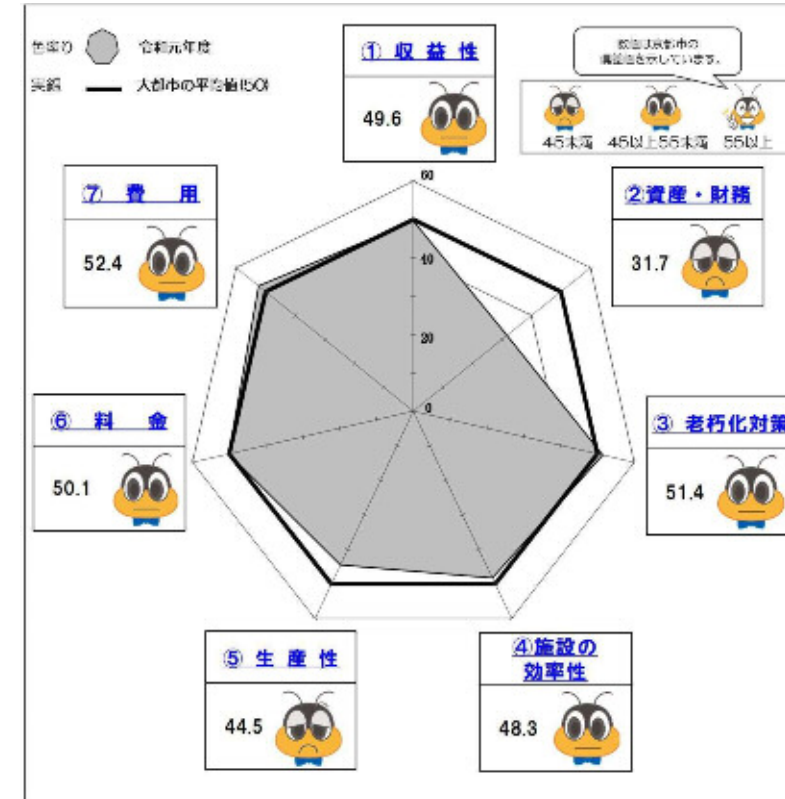


## 大都市比較から見る京都市の特徴

京都市の水道事業・公共下水道事業の特徴を、偏差値による大都市比較により表しています。なお、水道事業及び公共下水道事業は、自然条件や地理的条件をはじめ、施設の設備状況などにより経営環境が左右されるため、比較・分析に当たっては、地域特性や事業背景が異なることを考慮する必要があります。



### < 水道事業 >

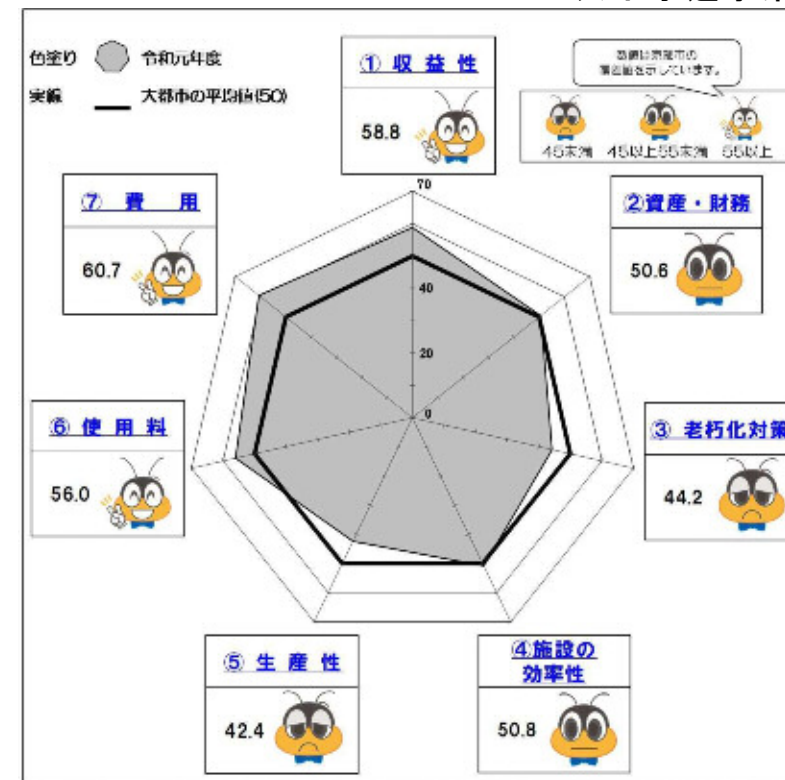


京都市の水道事業は、安全・安心な水道水を供給するために必要な施設の改築更新などの財源について、企業債に依存している割合が高いことから「②資産・財務」が、他の事業体からの水道水の受水の有無(京都市は琵琶湖から原水を取水)などの事業の運営形態の違い等により「⑤生産性」が、それぞれ低くなっています。

また、老朽化した管路の割合が高いことなどにより、他都市と比べ漏水量が多いことから「④施設の効率性」がやや低くなっていますが、配水管更新のスピードアップなどにより「③老朽化対策」は大都市平均値以上となっています。

このような中、効率的な事業運営に努めることで、少ない「⑦費用」で水を供給することにより、安価な「⑥料金」を維持しており、大都市平均並みの「①収益性」を維持しています。

### < 公共下水道事業 >



京都市の公共下水道事業は、これまでの経営効率化や財政基盤の強化、並びに施設規模の適正化などの取組により「②資産・財務」及び「④施設の効率性」は大都市平均並みとなっていますが、全国的に課題となっている下水道管路・施設の「③老朽化対策」については、事業開始からの経過年数が大都市平均を上回っていることなどにより低くなっています。

また、他都市と比べ合流式下水道の割合が高く、下水道使用料の対象とならない雨水の流入量が多いことなどにより「⑤生産性」は低くなっています。

このような中、効率的な事業運営に努めることで、少ない「⑦費用」で下水を処理することにより、安価な「⑥使用料」を維持しており、「①収益性」は大都市の平均値を上回っています。